へ13
3087
8

へ13
3087
8
特

傾城水滸傳第三編之三

曲亭主人著
歌川國安画

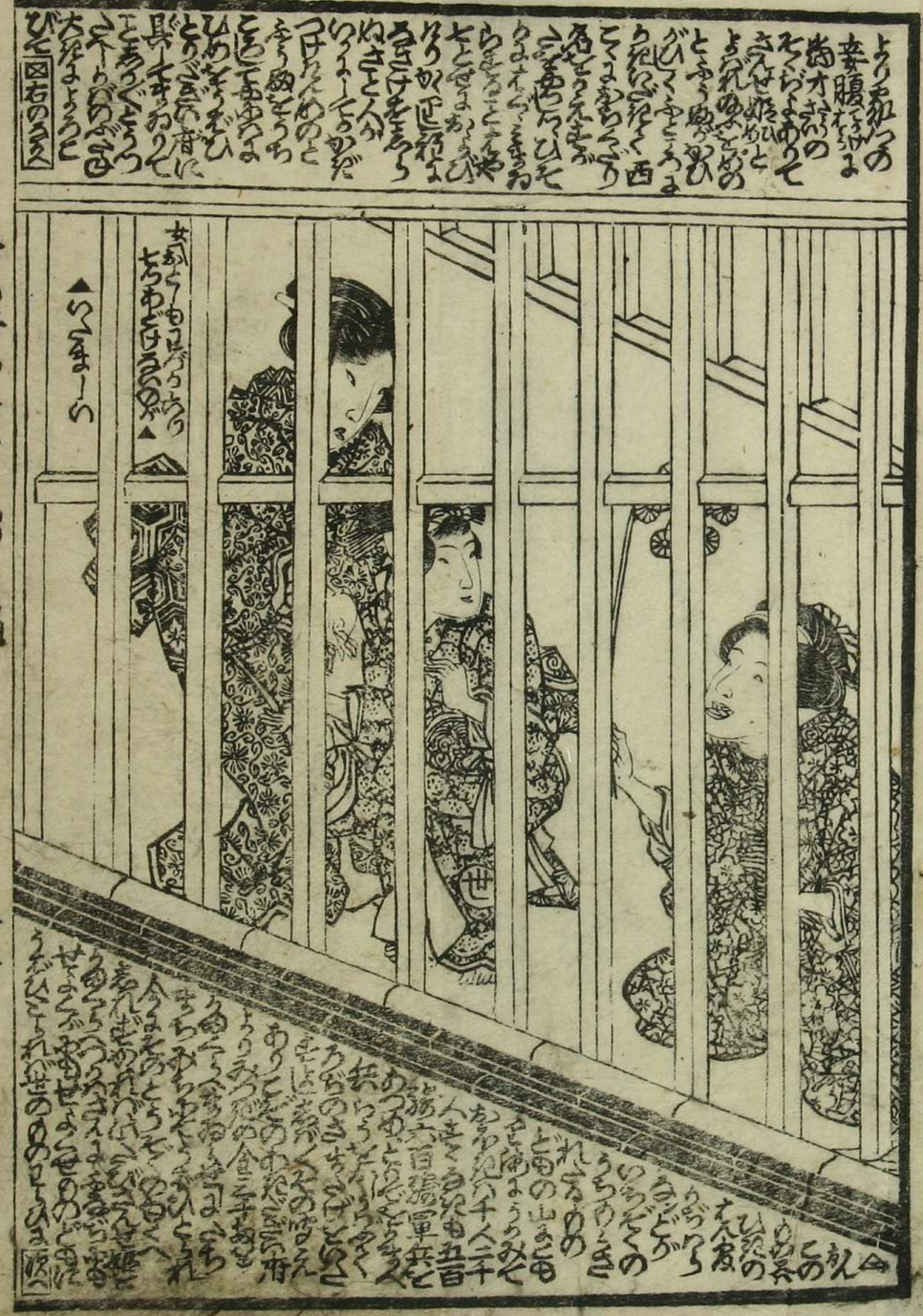
貂子頭林中ふ擬する虎尾の桜戸が傳末
白衣秀士王倫。摸著天杜遷。雲裡金剛宋萬ぬ
干地忽津朱貴ふ擬する。賽博士巨綸。天津雁直弓。女二王杜本が傳
青面獣楊志ふ擬する
急先鋒索超ふ擬する
挿翅虎雷横ふ擬する
赤髪鬼劉唐ふ擬する
托天王晁蓋ふ擬する
三阮兄弟ふ擬する。大歳麻三網。兼建水五井。鬼子母神七曲が傳
白日鼠白勝ふ擬する
入雲龍公孫勝ふ擬する
智多星呉用ふ擬する
智恵の海の巫呉竹が傳
書生の指揮の角力の頭蠍の赤の稲妻の味噌の蝶が傳
不見の素の城の鬼が傳
向の山嵐の青の柳が傳
荒磯の神の朱の西が傳
直の青の荒の磯が傳

三世姫

謡の紙ちぐひ水よ
水る夜よあのうく
とよべ原烟酒
第一弓出像補遺
馬琴作 豊国

畫鼠の白粉

東京帝国大学



稲

四兵の上分
四兵の下

二七 講書女孝経 婦人讀書指南

呉竹橋居

二

真

文政十丁亥春　鶴屋喜右衛門板

御免江戸暦開板所　毎年十月下旬頃より翌初春まで出板仕候　文社

載陽帖　全一冊　南山禅師書　四季和文章　石摺

新撰日本名所之繪　唐紙摺一枚　蕙齋鍬形絵眞筆

此馬八六十余別の名あり　御城北神社仏閣名所旧跡山川の絵　東海道の中山道の陸奥　多角くらべ　東大の日本国の中

新撰女古狀揃園生竹　大本半紙本　両品出来　高井蘭山編撰

此本は女川世をしめ巴あり世すぐく九不世の名さるしの喫女あり　此本は女川世をしめ巴あり世すぐく九不世の名さるしの喫女あり　汀家加賀見女の長川る　汀家加賀見女の長川る

三國一夜談　全五冊　画入讀本　曲亭馬琴作

即考百笑　全一冊　洒落　此書は一名醒帝鑑と号て醒帝鑑と号て醒帝鑑と号て　食あり　関帝の神妙あり　我胡蝶の　俳諧　識指添

笑話　笠亭仙果　筆　**玄同放言**　初編二編共三冊　第三編三冊近刻

右オ三編三冊　初編の　初編の　初編の

還魂紙料 古画入二冊出来 柳亭種彦隨筆

放下師浴奏の姿 俳諧乃句解常言の秘密 附し 彼八雅宴のうるべき書 八ツの徳と爾乃眼八題 一冊

歡童戲筆 遊言画手本 一名 鳥羽繪早みゝ葉

廣益 塵劫記 **懐中早割大全** 小本 一冊

新形染彩自植花手引草 前編出来 中巻人の生付きるあらとゆ 前芸術為一筆 後編刷 生生ふしぎこゝろ

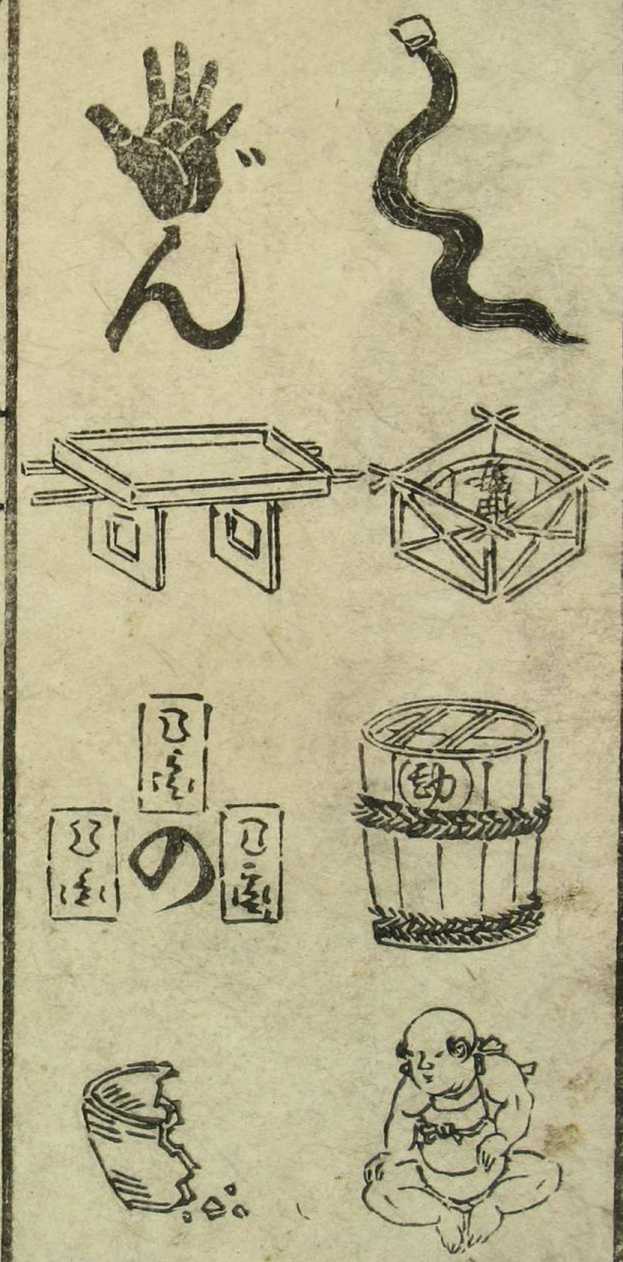
芝居役者似顔早稽古 後編 全一冊 五渡亭國貞画

八文舎自笑評 三篇之津 **役者評判記** 全 役者評判の出元福栄おとり 巻頭に其 冊入出九休 同 花 成年中三ツの評言評判明細 三 藝品定 同撰び文後位明 ■ 寛政三月二日 ■ 名

懐寶一覽 花乃都路 全 浄瑠璃人の狂歌入いと栄 三編 絵 ■ 花

曲亭馬琴戯編

奪胎換骨
和漢異趣



歌川國安繪画

江戸書肆
仙鶴堂梓

呉
著
五
七
二
甲

信
図右ヌ
図右ル
図右ヲ
図右ワ
図右カ
図右ヨ
図右タ
図右レ
図右ソ
図右ツ
図右ネ
図右ナ
図右ラ
図右ム
図右ウ
図右ヰ
図右ノ
図右オ
図右ク
図右ヤ
図右マ
図右ケ
図右フ
図右コ
図右エ
図右テ
図右ア
図右サ
図右キ
図右ユ
図右メ
図右ミ
図右シ
図右ヒ
図右モ
図右セ
図右ス
図右ン
図右ト
図右ハ
図右ヘ
図右ホ
図右チ
図右リ

田
栗
世
竹
清

八

栗
柳
田
酒

栗
粉

文政十四辛卯春　鶴屋喜右衛門板

御免江戸暦開板所

毎年十月下旬ごろ賣初めやう
手紙文ぢ　仲村屋

載陽帖

南山禅師書　東海道
四季賀章石摺　木曽海道

道法早算用道中記

一枚摺

新撰　日本名所之繪唐紙摺一枚　蕙齋鍬形紹真筆

新撰　女古状揃園生竹　大本半紙本　両品出来　高井蘭山編撰

還魂紙料

柳亭種彦隨筆
古画入二冊
田喜菴輯

芦のひとふし

幻住菴記弘證　芭蕉翁画

蓑笠翁隨筆　玄同放言　初編二編共三冊　第三編三冊　近刻

右才三編三冊共用の紙の製法の儀は、…
初編二編にあるべきものにもあらず…

三畝莊主木校輯 芳州集 全冊 板閑

同輯 蕙蘭集 全冊 追刻

撒童戲筆 遊言画手本 一名 烏羽繪早まなび 出来

廣益塵劫記 懷中早割大全 小本 一冊

新形染彩目 楂花手引糸 前編出来 前北齋為一筆 後編嗣刻 先生終不為こらせ

芝居役者似顔早稽古 後編 全一冊 五渡亭國貞画

八文字自笑評 三箇之津藝品定 役者評判記 全三冊

即考百籤 全一冊 籤箱添